

令和7年度

第44回 宇治市「中学生の主張」大会 まとめ



主催：宇治市教育委員会・宇治市青少年健全育成協議会・宇治市連合育友会

はじめに

本大会は、昭和57年に、中学生の願いや希望を友だちや大人に知ってもらおうという思いから始まり、今年度は、令和7年11月1日に第44回宇治市「中学生の主張」大会として、宇治市文化センター小ホールにおいて、開催することができました。

今回も、市内11中学校の代表生徒が、学校生活や家庭でのやり取り、地域の人々との交流などによって、感じたこと、体験したこと、疑問に思ったことを中学生の鋭い感性と素直な気持ちで表現した、素晴らしい主張を発表してくれました。また、2階のロビーでは、宇治支援学校における取組の紹介や中学部生徒の作品展示を行い、多くの方にご覧いただきました。

少子高齢化、情報化、デジタル技術の進展など、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わり続けています。コロナ禍で思うように外出できないという期間もありました。これからの時代を担う子どもたちは、困難に直面した際に解決策を見出していく力、自己の考えを大切にするとともに他者と協調しながら新しい価値を生み出していく力、などを身につけることが大切です。

この大会に向け、司会及び主張を発表された生徒の皆さんには、何度も練習を積み重ねてきたことと思います。自分の主張を大勢の前で伝えるために、文の構成や読み方について、試行錯誤を繰り返し、工夫をされたのではないでしょか。また、表紙絵を作成された生徒は、様々な思いを込めて描き上げてくれたことでしょう。これらの努力の経験を、今後の人生に活かしていただきたいと思います。

今年度もここに、『第44回宇治市「中学生の主張」大会まとめ』を発刊する運びとなりました。このまとめ冊子をご一読いただくとともに、今後とも青少年の健全育成に向けた活動がさらに充実・発展していくことを期待しております。

結びにあたりまして、本大会の開催及びまとめの刊行にあたり、ご尽力を賜りました関係各位に厚くお礼を申し上げます。

宇治市教育委員会
教育長 木上晴之

目 次

01. 開会のあいさつ	実行委員長	木 上 晴 之	1
02. 主張発表			
逃げないことの大切さ	広野中学校	1年 中 村 さ ち	2
日常という名の奇跡	立命館宇治中学校	3年 関 こ こ 瑠	3
自分らしさと怖さ	東宇治中学校	3年 梅 づ 志 おん 音	4
他所は他所、家は家	西宇治中学校	2年 笠 もと 侑 な 那	5
迷った時は困難な道を選べ	北宇治中学校	3年 芥 川 おと 羽	6
私と僕と I	南宇治中学校	3年 佐 古 も も こ 百桃子	7
中学校生活で学んだこと	木幡中学校	3年 萬 木 な つ は 椿	8
部活動を通して感じたこと	横島中学校	1年 大 橋 ゆう た 太	9
「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」	黄檗中学校	3年 城 田 あや 緑 音	10
同じスタートラインに立つため	宇治中学校	2年 松 井 は 波 な 菜	11
長所見つけで生まれる笑顔	西小倉中学校	1年 上 田 か な こ 佳菜子	12
03. 講 評	宇治市教育委員会 教育総合推進センター センター長 武 田 義 博	13	
04. 表 彰	三賞表彰及び全員写真	14	
05. 第44回 宇治市 「中学生の主張」大会の振り返り	大会を振り返っての写真集 宇治支援学校による展示コーナー	15	
06. 閉会のあいさつ	宇治市連合育友会 会長 前 畑 じん ご	16	
07. 京都府立宇治支援学校 中学部のまなび		17	
08. 主張発表生徒・司会生徒・表紙絵作成生徒と市長との懇談会		18	
09. 第44回宇治市「中学生の主張」大会実行委員一覧		19	

開会のあいさつ

本大会は、昭和50年代に、中学生の問題行動が大きく取り上げられていた中、「学校生活を送っている多くの中学生の願いや希望を、友だちや大人たちに知ってもらおう。」という思いから始まり、今回で44回目となります。この間、子どもたちを取り巻く問題行動については、かつてのような見えやすい非行・暴力から、インターネットやSNSによるトラブル、薬物問題など、潜在化する傾向があります。

また、新型コロナウィルスの流行により対面でのコミュニケーション機会の減少や各種イベントの休止など、人間関係の構築について学ぶ経験が極端に少なくなる時期があったことは、子どもたちの成長にとって少なからず影響があったものと考えております。

中学生の皆さんには、大人になる不安や悩みとともに、夢や希望を抱いていると思います。この大会を通して、そのような思いや考えを自分の言葉で語り、また友だちの思いや考えをしっかりと聞くことにより、様々なことに目を向ける機会となることを願っております。

宇治市内の11中学校の代表が、日々の生活を通して、感じたこと、考えたことを、豊かな感性で自分の主張として発表します。発表するさんは、学校や家で練習を積んでこられたかと思います。緊張するかもしれません、せっかくの機会ですので、どうか楽しんでみてください。中学生の鋭い感性と素直な気持ちから生まれる主張を、真っ直ぐ届けてくれることを楽しみにしています。

また、宇治支援学校は受付前のロビーにて、日ごろの生徒たちの活動や取組の発表、作品を展示していますのでぜひご覧ください。この大会のポスターの絵を作成したのも、発表の司会をするのも宇治市の中学生です。会場の皆様には、ぜひ中学生の力を感じてもらいたいと思います。

子どもたちを日頃からご家庭で支えてくださっている保護者の皆様、並びにコミュニティ・スクールの推進に様々なご支援・ご協力をいただいている地域の皆様に対しまして、改めて感謝申し上げますとともに、大会運営や生徒のご指導にご尽力いただきました各中学校の先生方をはじめ、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

結びにあたり、本大会が今後の中学生の皆さんの更なる成長の場となることを祈念いたしまして、主催者を代表してのご挨拶といたします。

宇治市「中学生の主張」大会実行委員会
実行委員長 木上晴之

主張発表

逃げないことの大切さ

なかむらさち
広野中学校1年 中村さち

私は中学生になって部活や勉強を投げ出してしまう人を見かける。おそらく、めんどうくさかったり難しかったりするのだろう。だが私は逃げ出すのではなく、最後までやり抜くことが自分にとっても大切なことだと思う。

なぜなら、嫌なことから逃げ続けると「逃げ癖」がついてしまい、今後大きな壁に当たった時に解決する力がなくなってしまうと考えたからだ。また、投げ出さずにやりきることでつく力があるとも考えている。私は、長い間続けていた習い事で、スイミングと英会話がある。その習い事が難しくなるにつれて、どんどん「やりたくない」という気持ちが大きくなり、「逃げ出してしまおう」と考える日が増えた。何度かズル休みをしたときもあったが、家族に言われた、「最後までやり切りなさい」という言葉を信じて、中学生になるまでやり続けた。すると、小学校での水泳の授業でもいい成績を取れるようになって、中学の英語のテストの成績がよくなり、私は初めてやり切ったおかげでやっと成果が得られる達成感があることを知った。そして、逃げなかつたことで、自分に自信もついた。このことが、逃げないことが大切だと思う理由だ。

この主張作文を書いていたときも、難しいし、大変だし、めんどうくさいとも思ったが、前のような体験から、逃げないことの大切さを知ったので、投げやりにならずにしっかりと考えて書くことができた。私がこういう問題に当たった時に大切だと思うのは「向き合う」ことだと思う。なぜなら、この時に逃げ出したりしてしまうと、成長できないと思うからだ。ただ逃げるだけだと、何の成長もできないが、問題に向き合って、「何が難しいか」「どうしたらいいのか」を考えてみると、問題解決に一歩近づくのではないだろうか。ここで、自分から逃げることにしてせっかくの成長のチャンスを逃すのは、自分の手で自分の成長を止めていることと同じだ。なので嫌なことがあっても、すぐ逃げるのではなく、まず向き合うことが、自分の成長につながると思う。

「逃げたらダメなのです」この言葉は、野球選手の王貞治さんの言葉だ。王貞治さんは、最も多くのホームランを打った人で、「世界の王」という愛称がつくほどすごい人だ。このような歴史に名が残るほどすごい人は、相当な努力をしてきてここまで上りつめたのだろう。しかも野球は厳しい世界で、良い成績が出ないと戦力外通告を受けることもある。その中で、自分と向き合い、逃げないことで強くなってきた人が言うのだから、やはり逃げないことはとても大切なのだろう。

このようなことから、私は「逃げない」ことが自分を大きく成長させ、強い人間になるのに大切なことだと考えた。中学生は、勉強や部活にも忙しく大変な時期で逃げたくなることも沢山あると思うが、そこで少し頑張って逃げずに取り組んでみてほしい。

日常という名の奇跡

立命館宇治中学校3年 関 ここる 瑞

「また明日！」あなたはこの言葉を友達に投げかけたことはありますか？あなたにとっての明日とはどのようなものですか？普通は「明日」が来るのは当然のこと、「また明日」は単なる挨拶として交わすための言葉に過ぎないのだと思います。しかし、私にとっての「また明日」は願い事のような言葉です。「また絶対に明日元気で会えますように」という願いを込めているのです。これは、今想像する「明日」が当たり前にくる訳ではないと二つの経験を通して知ったからです。

一つ目のきっかけは、私が幼稚園の年長になったばかりの4月に起きた熊本地震です。私は近所に新しく建設された小学校に通うお兄ちゃん、お姉ちゃんを見る度に自分も早く入学したいなと毎日胸を弾ませていました。まさか突然この日常が消え、私の未来も大きく変化することになるとは想像もしていませんでした。2016年4月の夜、二度に渡って起った最大震度7の大きな揺れは私の平穀な日常を突然奪い去ったのです。その揺れは命の危機を感じるほどのものでした。一瞬で棚の上の全ての物が床に大きな音と共に崩れ落ち、ガラスも床一面に広がりました。夜の暗闇の中、携帯の光たった一つで必需品を探しやっとの思いで玄関にたどり着くと、扉は揺れで歪み、外には出られなくなっていました。壁にはあちこちに大きな亀裂が入っていました。揺れが続く中、家が崩れる前に父が体当たりして何とか開けてくれた扉の先には、私が見慣れた景色はもうありませんでした。沢山の家は崩れ、窓も割れ、それらを横目に走って避難した先が、私が行く予定の小学校の体育館でした。まさか憧れのこの小学校に初めて入るのが避難という形になるとは思っていませんでした。中では子どもが不安と恐怖で泣き叫び、携帯からはひたすらけたたましい警報音が鳴り響いていたのが耳にこびりついています。今でも地震の警報音を聞く度に思い出し、身震いするほど私にとって一生忘れられない恐怖を味わった夜だったのです。地震後は全く知らない場所に引っ越しなければいけなくなり「また明日」を言って別れたはずの友達や先生とはもう二度と一緒に過ごせなくなってしまいました。この地震を経験してから、毎日「また明日友達と会えますように」と願いながら過ごすようになったのです。

二つ目のきっかけは、大好きな親友の死です。彼女とは地震後に新しく入った幼稚園で出会いました。笑顔がとびきり可愛くて人懐っこい子だったので私達はすぐに友達になり、そこから何年も一緒に育ちました。毎日会って「また明日！」と言って別れ、翌朝また会えるという何気ない幸せな日常を過ごしていました。小学校4年生で彼女が転校してからも長期の休みには会って遊んでいました。ところがしばらく会っていない間に、毎日私に笑いかけてくれていた元気な彼女は、脳の病気により突然倒れ、帰らぬ人となってしまったのです。彼女と最後に会った時の別れ際に、彼女が放った言葉を、私は一生忘れることができません。まるで遺言のように、彼女は「もし会えなかつたとしてもずっと大好きな親友だからね！いつもありがとう！」と明るい声で言ったのです。コロナの流行により、私は彼女に直接会えないまま一生の別れを告げることになりました。もう会えないとは頭でわかっていても、私が大好きなあの笑顔を一生見ることができないという現実を受け入れることができないままの自分がいます。きっとまた会えることを信じ、「また明日」という私の言葉に対する返事を私はずっと、心のどこかで、待ち続けているのかもしれません。私が今日、この場で亡き親友の話をしようと決めたのは、皆さんにいつ何が起きても後悔しないように生きてほしいからです。そして、私と同じような苦しみを味わう人を一人でも多く減らしたいからです。未来は誰にも予測できません。日常という名の奇跡に感謝し、明日があるからと今日できる事ややりたいことを先延ばしにするのではなく、毎日を精一杯生きることが私達にできる一番大切なことなのではないでしょうか。あなたの「明日」への考え方たった一つをほんの少し変えることで、自分自身の未来を、自らの手で明るくしていきませんか？

自分らしさと怖さ

東宇治中学校3年 梅津志音

学校生活において、自分らしく生きることは難しいと思います。私はずっと周りの目を気にして、これをすれば周りの人たちに嫌われてしまうかもなど、色々なことを考えて毎日を過ごしてきました。学校に行くのは楽しく、つらいとは思いません。ですが、みんなに好かれていて、何でもできる人に小さく嫉妬し、そういう人を見て「自分は何で…」と息苦しく感じることが多々ありました。こんな思いをしている中学生はたくさんいるのではないでしょうか。

私は、周囲に流されることがよくあります。小さい頃から自分の発言を否定されるのが怖くて、何か選択を迫られた際は、周りの様子を見てから、それに合わせるように決める癖がついてしまいました。こういったことがあるたびに、この悪い癖を直そうと思って、モヤモヤしてしまいます。ですが、自分らしくいたいと思っても、怖さがブレーキになります。

そんな時、父に「私はここにいるということを主張しなさい。そして堂々と生きなさい。」と言われました。この言葉を聞いた時、私はやってみようと思いました。

後日、部活動で批判を受けることがありました。そのとき私は逃げずに、自分の想いをしっかりと相手に伝えることができました。私がどう考えているかを伝えたことで、批判してきた人は、それから何も言ってこなくなりました。今までずっと「自分は一人で頑張らなければならない。」と思い込んでいたけれど、実は私のことを陰で応援してくれ、つらい時にはそっと力を貸してくれる仲間がたくさんいたことに気づきました。そのことに気づいた私は、一人ではないという安心感と、支えてくれる人たちへの感謝の気持ちでいっぱいになり、本当に嬉しく思いました。

それから、私は前よりも自分というものを持てるようになりました。自分の考えをはっきり持って、自分の言葉で伝えるのは勇気がいりましたが、行動を起こすことで、徐々にそれに慣れることができますようになりました。

こんな風に私が変わったことで、前よりも明るく接してくれる友達が増えたように思います。怖かったけれども、ちゃんと自分という存在を主張できるようになって良かったです。中学生のうちにこうして成長できたのは自分でも自信が持てる点です。

このことを通して、自分を変えられるタイミングはたくさんあると思いました。誰もが一瞬の勇気で未来を変えることができます。だから、怖いと思った時こそ一歩踏み出してみてほしい。勇気を出せた瞬間の前と後で、周りがどう変わったのかを体験してほしいですし、体験出来たら忘れないでほしいです。

自分を受け入れてくれる人がいないと感じるときには、自分らしくいることは寂しさや怖さで不安になることがあると思います。でも、自分のことを大切にできて、周りのことでも悩める人はきっと大丈夫です。いつの間にか周りにたくさんの仲間がいることに気づくことができます。だから胸を張って生きていってください。

私はずっと人間関係で悩んでいました。しかし、それは私だけじゃないということに気づいて一歩踏み出せたとき、自分の心が軽くなっていました。だから私は、自分らしくいることをあきらめずにいたいし、同じような悩みを持つ人にもそうあってほしいと思っています。どんな時でも、「これが私だ。」と胸を張って生きられるように、これからも努力していきます。これが、私の自分らしく生きることです。

他所は他所、家は家

西宇治中学校2年 笠本侑那

「他所は他所、家は家」この言葉を一度は耳にしたことがあるのではないだろうか。意味は「他人や他の家と自分たちを比較しない。それぞれの価値観や状況を尊重する。」ということだ。私も小学生の頃に「みんなやってる、みんな持ってる。」と言えば、母にいつもこの言葉を言っていた。そのたびに、何も言い返せず、悔しい思いをしていたことを覚えている。そんな都合よく使われる言葉だけれど、そこには様々な意味が込められているように感じる。

私は、昔から周りと自分とを比べる癖がある。たとえば、姉や友達にはできるのに、なぜ私にはできないのだろうか？とか……。

そんなことを思ってもどうにもならないとは分かってはいるが、そう考えてしまう。逆に、友達に「なんで私はこんなにやってもできないのに、あなたはできるの？」と聞かれても、こちらもどう答えたらいいのか分からない。人にはそれぞれ得意なことや不得意なことがあるので簡単に答えは出せない。人間というものは、自分が持っていないものを欲しがる、そういう生き物だ。だからこそ、自分にできないことはすぐに他人と比較してしまうのかもしれない。できないことがあっても、自分の長所も理解し、丸ごと自分だと割り切れるといいのだろうが、そう簡単にできるものではない。なぜなら、そんなできない自分を周りにも比較されてしまうからだ。たとえば、「お姉ちゃんはできたんだから、あなたもできるでしょ。」と決めつけられる。その時に「他所は他所、家は家と一緒にで、私は私、お姉ちゃんはお姉ちゃんでしょ。」と言い返したことがあるが、そんなことは関係ないと言わってしまった。「矛盾してるじゃん。」と思った覚えがある。誰かができたらあなたもできる、という考え方自体が少し違うように私は感じた。誰かができたら誰でもできるのなら、全人類100メートルを10秒で走ることができるではないか。否、得意、不得意があるだろうから全員はできない。それと同じで、物事にはそれぞれのスピードや考え方があるから、誰かができるからといって、誰もがそれをできるわけではないと私は思った。

そんな矛盾を感じる言葉だが、そもそもどうしてよく使われるのだろうか。それはきっと他人と比較してしまう私たちをなだめるためだろう。「他所は他所、家は家」と言わされてしまえば何も言い返すことができなくなってしまう。なぜなら、実際に自分と他人は全く違う人で、自分はどんなに探しても世界に一人しかいないからだ。他人を羨んでばかりいても何も得られない。それなら、そうやって割り切ってしまうほうが幸せに感じる。この言葉に反発を覚えるときもあるけれど、その言葉を投げかけられたときは「自分の努力でどうにかしてみせなさい、他人と比較しても何も始まらないぞ。」ということなんだろうと思う。

「他所は他所、家は家」この言葉は都合よく使われる言葉だ。しかし、それだけではない。そこにはたくさんのメッセージが隠されていると思う。私の場合は「人に流されず、自分を大切にすること。また、すべてを得意、不得意で言い訳をするな。」ということだ。だから、この言葉を言われたときは、それがどういう意味で投げかけられたものなのか一度考えてみなければならない。きっとそこにはあなたに向けてのメッセージが隠れていると思うから。

迷った時は困難な道を選べ

北宇治中学校 3年 芥川音羽

みなさんは岡本太郎という人物を知っていますか。かつて行われた大阪万博の「太陽の塔」を作成したことで知られている方です。その方が残した名言に「迷った時は困難な道を選べ」という言葉があります。これは祖母から母に、母から私に伝えられてきた言葉でもあります。

私は困難な道を選んで後悔はありません。そう思う理由を私の実体験に基づいてお話しします。私は中学2年生の春、野球部に入りました。野球部に入る以外にも他に四つの選択肢がありました。一つ目は「部活に入らないこと」、二つ目は「何かスポーツを続けること」、三つ目は「部活には入らず以前から続けていたクラブチームのソフトボールを続けること」、最後に四つ目は「野球部とクラブチームのソフトボールとの二刀流に挑戦すること」です。最初は何もしたくないという無気力な状態でした。このまま大好きなソフトボールも辞めてしまおうと思いました。何度も何度も何日も何日も自分に問いかけました。一つ辿り着いたのは、「何も挑戦しなかった未来の自分が見えなかったこと」です。その日から、家族会議が毎日のように行われました。ある日突然、母が私に「もう一回野球をやってみたら」と言いました。私は小学校の時野球をしていましたが、中学で野球部に入るという選択肢は全く頭にありませんでした。想像してみたけれど、一年間で築き上げられたみんなの輪の中に入ることが怖く、不安でたまりませんでした。一年間のブランクもあり、体格もパワーも敵わない男子の中に入ることは無理だと思っていました。兄は自分が野球をしていたので、私には「しんどい世界だ」と猛反対してきました。ただ反対されると本当に私にはできないのかという感情も生まれました。たとえ男子に追いつけなくとも、私にしかできないことはあるのではないかと思い、四つある選択肢の中で一番厳しい道、「野球部とクラブチームのソフトボールとの二刀流に挑戦すること」を選びました。私が選んだ道は、やはり想像以上にしんどいものでした。現実と理想がかけ離れていることも体験しました。ですが、この夏引退をして、改めてこの一年間を振り返ってみると、挑戦して後悔はなく、みんなと肩を並べて試合に出ることもでき、上手くいかないこともあったけれど無駄なことは何一つありませんでした。これは自分が挑戦したからできた体験です。そして何よりも大切な仲間ができました。あの時、一番楽な選択をしていたら、今隣にいる仲間達には出逢えてなかっただと思います。

困難であればあるほど、乗り越えた自分は強くなれると思います。私は来年、受験を迎えます。今、進路で凄く悩んでいます。自分がどうしたいのか、どうなりたいのかは、自分の心に正直に従わないといふからないことです。厳しい道を選んで、心が折れることもあると思います。ですが私は、挑戦し続けることに意味があるので、いくつかの選択肢を前にした時はしんどいから辞める、できないから辞めるという考えは捨て、より自分が成長できる道を選んでいきたいです。

私と僕と I

南宇治中学校 3年 佐 古 百桃子

ある日、私が国語の文法の勉強をしようと、ネットで例題を探していた時のことです。「あ、これは役立つ！」と、ある大学(※)が留学生向けに公開している文法の学習サイトを見つけました。問題を解き進んでいくと、スクロールする指がはたと止まりました。画面にはこのような問題が映っていました。

「次の三つの文の中で、主に男性が話す文を選んで下さい。①山田君も来るさ。②山田君も来るわ。③山田君も来るの。」

あなたは何番を選びますか。

この問題を目にした時に私の頭に浮かんだもの、それはSDGsのうちの一つの目標です。最近、日本でもSDGsの取り組みが本格的に進められていると感じますが、世界から見て、日本が大きく遅れをとっていると思われるもの、それは「ジェンダー平等」です。ジェンダーというのは、社会や文化の中で作られた「その性別らしいありかた」ことで、ジェンダーによる偏見や不平等をなくし、すべての人が平等に自由でいられる権利を持つことが、ジェンダー平等におけるゴールだと思います。しかし、日本の政治家や平均所得が女性よりも男性の方が多いように、日本のジェンダーギャップ指数は世界156ヵ国中130位ととても低いです。私はこの理由の一つが、「日本語」にあるのではないかと思うのです。

世界では現在7,139種類もの言語が使用されています。その中でも日本語のように、ジェンダーが目立つ言語は少ないと言います。冒頭で挙げた問題。この問題の正解は、「①山田君も来るさ。」です。皆さん、正解を導き出す時に、語尾に注目したと思いますが、この文を英語に訳すと、全て「Yamada is coming, too.」となります。このように、日本語には英語にはない「男言葉」「女言葉」が存在し、口調によって話し手が男性か女性かを判断することができるのです。

私は小学校の外国語の授業で、英語のある特徴に衝撃を覚えました。それは、英語では目上の人と話す時以外、名前に敬称が付かないということです。日本語では、男の子には「君」、女の子には「さん」や「ちゃん」をつけて名前を呼びます。現在は、男女ともに「さん」をつけることが増えましたが、私たちは物心ついた時から、この「敬称」を自然と覚え、すっかり体に染みついています。また、ジェンダーは一人称にも表れます。英語ではすべて「I」ですが、日本語では「僕」や「俺」「私」が存在します。このように、私たちは気づかぬうちに、日々ジェンダーに触れてきたのです。

今回、私は世界、特に英語と比べて、日本語にはジェンダーの違いが大きく表れることに気づかされました。日本語には繊細さや優しさなど、日本語でしか表現できない言葉がたくさんあります。また、敬称や口調には相手を気遣う心がこめられるなど、特有の大切な文化でもあります。しかし、時代によって考えが変化するように、時代に合わない言葉も出てきてしまいます。例えば、皆さんは俳優と聞くと、どちらの性別を思い浮かべるのでしょうか。紅白歌合戦の白組は、誰が男性だと決めたのでしょうか。このように、日本語には多様性を大切とするこの時代に不釣り合いな言葉もあり、中にはそれに傷付く人もいます。だからこそ私たちは、日本語の良さも違いも特徴の一つとして大切にしていきながら、言葉に対して日々敏感になり疑問を持ち、考え続けることが大切だと私は思うのです。

もう一度聞きます。「次の三つの文の中で、主に男性が話す文を選んで下さい。①山田君も来るさ。②山田君も来るわ。③山田君も来るの。」・・・あなたは何番を選びますか。

※東京外国語大学

中学校生活で学んだこと

木幡中学校 3年 萬木 なつは 椿

「努力すれば必ず報われる」なんてことは、あり得ない。努力したって、手に入らなかったこと、うまくいかなくて悔しい思いだけが残ったことが今まで数えきれないほどあった。努力すればうまくいく、努力すれば結果がついてくるといった、成功例ばかりを耳にしてきたが、実際とは大きくかけ離れていた。私は努力しても必ず報われるとは思わない。努力したって、報われないことがほとんどだと言いたい。

中学2年生の夏、合唱コンクールで伴奏者をさせてもらうことになった。嬉しくて、本番必ず成功させるぞという思いで、毎日ピアノに向かい、練習に励んだ。楽譜通りに弾くだけでなく、曲の意味を考え、表情をつけて弾くことも意識した。会場が緊張に包まれる中、「大丈夫、できる」と何度も心の中で唱えた。そんな中迎えた本番、想像していたサクセスストーリーとは裏腹に、ミスの連発だった。その上、一番観客の興味を惹きつけるからと、意気込んで練習していた出だしをミスしてしまったのだ。演奏後、友達からは「大丈夫だよ」と慰めてもらったけれど、納得がいかないまま終わってしまった。あれだけ必死で練習したのに、後悔しか残らなかった。涙が止まらなかった。

部活動でも似たような思いをした。中学3年間部活動に励んできた。試合に勝って、キラキラ輝いている姉の背中に憧れ、私もやってみたい。試合に勝ちたい。と思ったのが入部のきっかけだった。でも、一勝の道は思った以上に遠かった。それでも入ったからにはと、部活動の練習だけでなく、私生活も見直した。挨拶、返事、身だしなみ、時間を守るといった当たり前のことから正してみた。それも一勝につながる大事なことだと思ったからだ。また、学校の練習だけでは足りないと思い、帰ってからも個人練習に打ち込んだ。技術を磨くために、習い事にも通わせてもらった。自分で納得する試合をすると決めたからと、勝つためにたくさんの時間を費やした。でも、うまくいかなかった。卒部した今でも、あの時のことを思い出し、涙を浮かべることがある。悔しくて悔しくてたまらなかった。勝つ喜びを味わいたかった。勝って仲間と笑い合いたかった。

努力をした者が必ず報われるとは限らない。しかし、報われた者は、必ずどこかで努力をしているにちがいない。果たして、私は本当に精一杯頑張り、努力してきたと胸を張って言えるのだろうか。努力しているつもりでも、まだまだ真の努力と呼べるレベルにまで達していなかっただけなのではないだろうか。自分で限界を決めてしまっていただけなのではないだろうか。要は、「努力」は結果を掴み取った者だけが実感することのできる言葉なのだと思う。そのために、諦めず、粘り強く、これからも頑張り続けていくことが大切なことなのだと思う。この言葉の意味が本当にわかるまでは、自分の決めたことをやり通していきたい。

これまで、「こんなに頑張ったのに」と見返りを求めてばかりいる自分がいた。努力が報われないことを嘆くのが間違っていた。このような経験を繰り返しながら、これからも成長していくのだと思う。「努力すれば必ず報われる」この言葉の意味が確かなものになるまで頑張る。人生はこれから。まだまだ先は長い。自分次第でいくらでも頑張る目標はもてる。とてもありがたいことだと思う。勉強のこと、友達とのこと、将来のこと……どんなことでも、楽しく前向きに捉え、頑張り続けることのできる自分でありたいと思う。

部活動を通して感じたこと

おお はし ゆう た
横島中学校1年 大 橋 祐 太

私は、男子バスケットボール部に所属しており、部活動が大好きです。バスケットボールは中学生になってから始めました。初めは、バスケットボールが上手になれるのかと、とても不安でした。しかし、今では楽しく活動できています。それは、部活動からたくさんのこと学んだからです。

部活動を通して得たものは三つあります。一つ目は、仲間とのコミュニケーションの大切さです。バスケットボールでは、チームプレーが大切になります。そのため、日ごろのコミュニケーションが重要になってきます。入部当初は、初めての先輩や同級生に、どのように接したらよいか不安でしたが、先輩たちが丁寧に優しくコミュニケーションを取ってくれました。先輩たちのように上手になりたくてドリブルやパスのコツを聞いたときも、優しくアドバイスしてくれました。私も先輩になったときに、今の先輩たちがしてくれたように、優しくコミュニケーションをとり、後輩と関わわりたいと思いました。そして、部活動を通してコミュニケーションについて学んだことで、授業やクラスでの話し合い活動にも積極的に参加することができるようになりました。

二つ目は、コツコツと努力することができるようになりました。初めはできなかったバスケットボールの動きが、練習のおかげで少しづつできるようになりました。この経験は、部活動だけでなく、今後の勉強や習い事にも役立ち、今後の自信に繋がっていくと思います。そして、一緒に努力する仲間と共に戦っていくことが、最高の思い出になっていきます。

三つ目は、運動系の部活動だけにはなりますが、体力がつき運動不足の解消になります。将来、体力を使う仕事に就いた場合、中学生の頃に行っていた部活動が役に立ちます。

このような点から、部活動は大切だと思いました。しかし、部活動は少子化や指導員不足などの問題からどんどん少なくなっています。私の学校でも、今年二つの部活動が廃部となってしまいました。そして、運動をする人が少なくなり、将来のやりたいことを減らしてしまっているのではないかと思います。また、近年は地球温暖化などの影響により、夏は38度くらいの暑さに見舞われています。その中で、熱中症になってしまい、命を落としてしまう人もたくさんいます。私も、今年の夏に体育館での練習のときに、その日は十分に睡眠や食事をとり、しっかりと水分補給をするなど万全な状態で臨んだにもかかわらず、熱中症のような症状が出てしまいました。なんとその日は、外の気温より体育館の室温の方が高かったのです。このように、熱中症のような症状を出している人がいるにもかかわらず、今の学校の体育館の多くにはエアコンが設置されていません。そこで、私は中学校の体育館にエアコンを設置することを希望します。エアコンを設置することにより、体育の授業や部活動など、体育館で行うすべてのことに全力で取り組み、より良いパフォーマンスが安心して出せると思います。

私は、部活動を通して学んだコミュニケーション能力の必要性や努力する力、鍛えた体力などを中学校生活に最大限活かし、これからも部活動はもちろん、勉強や学校行事も頑張っていこうと思います。

「ふわふわ言葉」と「チクチク言葉」

黄檗中学校3年 城田 紗音
しろ た あや ね

「『ふわふわ言葉』と『チクチク言葉』にはどんなものがあるか考えてみましょう。」

私は小学生の時の授業でこの質問をされたことがあります。もしかしたら学校でこの質問をされたことがある人もいるのではないでしょうか。

ふわふわ言葉は相手を励ましたり良い思いにさせる、優しい言葉。反対にチクチク言葉は相手を傷つけたり不快な思いにさせる、攻撃的な言葉と言われています。その例にふわふわ言葉には「ありがとう」「頑張ってね」チクチク言葉には「ばか」「きもい」などが挙げられます。私が小学生の時に受けた授業でもそんな言葉が出てきて、先生に「友達にはふわふわ言葉を使いましょう」と言わされたような気がします。その授業は言葉の重みを知れる大切な授業だと思います。ですが最近、日常に存在している言葉はあの時の授業のように綺麗に整えるだけでよいのだろうか。大切なのは表面的に見える言葉だけでよいのだろうか。そんな疑問が自分の中を巡るようになりました。

そのきっかけは私に対して話された「偉い！凄い！」と言う言葉です。私は4人きょうだいの長女なのですが下の子が小さいこともあります。家では手伝いをすることもあります。その度に「偉い！凄い！」と言ってもらえる機会が増えました。ですが私はその言葉を言われた時に、自分の中の何かがぶつりときれ、もうやり切ったように感じてしまうことがありました。そしてこれからまた、頑張らないといけないのかと気が進まないこともあります。相手は嫌な思いにさせるために話した訳ではないと分かってはいました。ですがそれまでは褒められないと嬉しかった言葉も、もう頑張ってきた後に言われるとチクチク言葉に感じました。その時にふわふわ言葉であっても状況、文脈、言い方、受け手の心理状況によってはチクチク言葉になり得るのだと実感しました。

一つ一つの言葉には複数の意味がある場合があります。例えば「頑張ってね」という言葉でも、限界まで頑張り続けた人にとっては、その一言が重圧になり苦しくなるかもしれません。「、ばか」と言う言葉から始まる青春があるかもしれません。そして、もしも友達がいじめられていて助けるために「ふざけんな！」と叫ぶ人がいれば、私は勇気ある不器用なふわふわ言葉だと感じます。

本当に大切なことは「ふわふわ」「チクチク」なんて4文字では伝えきれないのだと考えます。伝える側は、言葉は受け取る相手や状況によって意味が変化することを忘れずに話すことが大切です。私も感情が安定せず余裕がなかった時には、言われた言葉に対して後ろ向きな受け取り方をしてしまいましたが、その後冷静になれた時には言葉通りに受け取ることができました。そして受け取る側も言葉をただ聞くだけでなく、言葉にある相手の気持ちを汲み取ろうとすることも必要だと思います。そのお互いの気遣いや思いやりが、嫌な思いにさせることを少なくします。

そしてたくさんの賞賛の言葉より、一つの心無い言葉が深く残ってしまうことがあるように、言葉によって重みが変わるということも大切です。現在はインターネットで簡単に発言することができます。ですが「意見を自由に出せる権利」を「心無い言葉を好き勝手にぶつけていい権利」と履き違えてはいけません。恐らく実際に人に誹謗中傷をしている人達は自覚なく、むしろ相手の間違いを指摘して正してやっている、くらいに思っているのかもしれません。その考えはその人自身に気付きが無ければ無くなることはないと感じます。受け取る相手の状況によって言葉の意味は変わることであります。なのであなたも、言葉の重みについて一度考え直してみませんか。

同じスタートラインに立つため

宇治中学校2年 松井はな

突然ですが、私はある障害を持っています。それは、学習障害です。学習障害とは、知的能力に問題がないのに、特定の分野で困難を抱えている障害のことです。学習障害は主に、読字障害・書字障害・算数障害の三つに分かれています、私は読字障害と書字障害を持っています。

私は小学1年生の時、とにかく宿題をやるのが嫌で、泣いてばかりいた記憶があります。宿題には、沢山苦しめられてきました。文字を枠の中に収めて書くことができず、嫌でマス目を黒く塗りつぶすこともありました。音読はうまく読めず、一文字ずつ読んだり、とばして読んだりしていました。

そんな私を見て、親は学校に相談してくれ、担任の先生は発達障害の検査をすすめてくれました。受けた結果、学習障害を持っていることが分かりました。この歳で分かったことは、良かったと思います。早くに分かったことで、私に合ったトレーニングを受けることができ、出来ることが少しずつ増えていったからです。早く気づいてくれた親と先生には感謝しています。

小学2年生になると、通っていた小学校に通級教室ができ、授業を抜けて通いました。通級教室では、言葉の練習や点つなぎなど、私に合ったトレーニングを受けました。それと同時に、様々な合理的配慮を受けるようになりました。宿題は、みんなよりも少し量を減らしてもらいました。難しく感じていた板書は、横に置いて写せるように、板書のコピーをもらいました。嫌な気持ちが減り、助かったことも事実ですが、自分が悪いなとも思っていました。少しでもみんなと同じようにできないかなと、ずっと思っていました。

中学校に入学すると、テストが大きく変わりました。問題数が多く、文字も小さいため、私にはとてもつらかったです。そこで、テストでも合理的配慮を受けることにしました。合理的配慮とは、障害のある人が、障害のない人と平等にできるよう、それぞれの障害に応じて行われる配慮のことです。読みやすいフォントに変え、テストでは、時間の延長とテスト用紙の拡大をしてもらいました。このおかげで、私はテストを最後まで解けるようになりました。合理的配慮が受けられるように動いてくれた親と先生には心から感謝しています。

このように、私は障害と共に生きてています。その中で強く思うことは、「配慮を受けることは悪いことではない」ということです。私はずっと、配慮を受けることは悪いことだと思っていました。自分ががるい、と思っていました。しかし、周りの先生や親が私に教えてくれました。「みんなと同じスタートラインに立つためだから、いいんだよ。」と。私はみんなと同じようにできないのではなく、スタートラインが違ったのです。私に合った合理的配慮を受けることで、同じスタートラインに立つことができたのです。私は、昔の自分では考えられなかつたようなことが、出来るようになりました。

だから、私は言いたいのです。学習面で困っている人がいれば、周りの先生や親に「困っている」と声を出してほしい。合理的配慮を受けることが悪いと思っている人がいれば、「同じスタートラインに立つためだからいいんだ」と思ってほしい。

私は、「合理的配慮を受けることは悪いことではない。同じスタートラインに立つためだ」と主張します。

長所見つけて生まれる笑顔

西小倉中学校1年 上田佳菜子

みなさんは、人の長所と短所どちらに目がいきやすいですか。私はつい短所ばかりを見てしまうときがありました。けれど私は、人の長所を見つけ伝えることはとても大切だと考えます。なぜなら、相手の長所に目を向けて伝えることで、自分も周りも自然と笑顔になれたり、相手の自信にもつながったりするからです。そして、長所を伝えることは、「ほめる」ことともまたちがった力を持っているとも思います。

まず、長所を伝えると、伝えられた人は笑顔になったり、自信になったりします。私は中学校からバレーボール部に入りました。最初は分からぬことがたくさんありました。ボール出しの仕方が分かったら先輩と交代するなど、教えてもらったことはできるだけ自分からやろうと心掛けました。すると、先輩たちの引退式のときもらった手紙に「ボール拾いとかボール出しとか何も言わなくてもしてくれてありがとう。」というようなことを書いてくださっていました。それを読んで、先輩たちが見ていてくれて嬉しかったし、これからも続けようと思いました。また、サーブの練習をしていたとき、友達が「いい感じ！覚えるの早い！」と言ってくれて、前より少しできるようになっただけだったけど、「もっと練習しよう。」という気持ちになり、とても前向きになされました。このような経験から、長所を伝えることは、人に自信を与え、笑顔と前向きな気持ちを広げる大切な力だと実感しました。

次に、お互いが長所を見つけあうことで、欠点ばかり見る人がいなくなり、けんかや悪口も減って、普段の学校生活をもっと楽しめます。私は、一度苦手だと思うと、時間が経つまでは一緒に話していても苦手意識のようなものが出てしまい、楽しく話せなくなってしまいます。でも、苦手になりたいわけじゃないし、楽しく話したいので、どうすればいいかをいつも考えていました。そして、その人の長所を見つけようと思うようになりました。それからは、長所の方が目に入りやすくなったり、長所を見つけたことで、短所を受け入れやすくなって、苦手だと感じる人もいなくなり、普段と変わらない生活がもっと楽しく感じました。短所ではなく長所に目を向けることで、相手も自分も笑顔になり、学校生活をより楽しく過ごせることに気づきました。

最後に、長所を伝えるのは「ほめる」とは違った力を持っています。ほめるとは、その場での行動や結果を評価することです。「すごいね。」や「上手だね。」など言ってもらえると、もちろんうれしいですが、一時的な喜びで終わってしまい、長くは心に残りません。けれども、長所を伝えることは、その人の根本的な良さに注目することになります。例えば、「人のことをすぐ気にかけられるね。」や「あきらめずに続けられているね。」と言われると、「自分の強みはこれなんだ。」と気づくことができ、相手の自信となります。だから、長所を伝えることは、ほめることとはちがい、相手に自信や前向きな気持ちを与えるものなのです。

だからこそ、長所を見つけ伝えることは、人を笑顔にし、自信や前向きな気持ちを与える大切な力だといえるのです。私はこれから、長所を伝えることを意識し、たくさんの人を笑顔にしていきたいです。

講評

宇治市教育委員会
教育総合推進センター長 武田義博

本日、宇治市各中学校の代表の皆さんによる主張発表、また宇治支援学校の皆さんの展示発表の機会を、ご参加いただいた皆様と共有することができましたことを大変うれしく思います。

さて、主張発表においては、発表者の皆さんのが、自分の想いや考えを力強く、感情豊かに発表してくれました。発表を聞いた誰もが、皆さんの姿から大きな刺激と感銘を受けているものと思います。

それぞれの主張発表には、皆さんの思いが凝縮されているワードやセンテンスがありました。それらをもとに今年の主張発表を振り返りたいと思います。

「『逃げない』ことが自分を大きく成長させ、強い人間になるのに大切なことだ」逃げずに、自分で考えることが成長のために必要であること。「毎日を精一杯生きることが私たちにできる一番大切なこと」精一杯生きるための心構えや考え方など、今の自分を見つめ直していくこと。「自分らしくいることをあきらめずにいたい」自分を表現する「勇気」を持ち続けることの大切さ。「人に流されず、自分を大切にすること。また、すべてを得意、不得意で言い訳をするな」言い訳ではなく、今を前向きに考えることのできる自分に変えていくこと。「挑戦し続けることに意味がある」あえて困難な道を選択する意思の強さ。「言葉に対して日々敏感になり疑問を持ち、考え続けることが大切だ」言葉の持つ意味を考えることが、相手を想うことにつながること。「どんなことでも、楽しく前向きに捉え、頑張り続けることのできる自分でありたい」努力について考える中で、目指すべき自分の姿にたどりついたこと。「部活動を通して学んだコミュニケーション能力の必要性や努力する力、鍛えた体力などを中学校生活に活かしたい」少子化が進む中で、改めて部活動の持つ意義について考えたこと。「受け取る相手の状況によって言葉の意味は変わる」コミュニケーションの基本は、互いの気持ちにしっかりと目を向けること。「配慮を受けることは悪いことではない」誰もが大切にされるための支援が、当たり前に感じられる社会にしていきたいとの思い。「長所を見つけ伝えることは、人を笑顔にし、自信や前向きな気持ちを与える大切な力だ」相手のことを理解して表現することが、互いに笑顔となる秘訣であること。

このように、皆さんがそれぞれの主張の中で、自分の内面に生じた疑問や問題意識を、素直な感性でまとめる過程において、これまでにはなかった感情や感覚を獲得し、「新しい自分を発見する」そんな瞬間を実感できたのではないでしょうか。

「自分で感じ、考えること」、「様々な人の考え方や想いに触れること」、「自分自身を表現すること」は、中学生の皆さんのが、これから生きていく社会でますます重要とされることであり、これらのことを見事に体現してくれた発表者の皆さんの主張が、他の多くの中学生の皆さんの中間に刺激を与え、自らを成長させていく原動力となることを大いに期待したいと思います。

最後に、本大会の開催にあたり、ご尽力いただきました皆様方に心から感謝を申し上げ、講評とさせていただきます。

表彰



宇治市教育委員会賞
宇治中学校 2年 松井 波菜



宇治市青少年健全育成協議会賞
木幡中学校 3年 萬木 七椿



宇治市連合育友会賞
南宇治中学校 3年 佐古 百桃子



第44回宇治市「中学生の主張」大会の振り返り



京都府立宇治支援学校による展示コーナー



今年度も、2階のロビーで宇治支援学校の取組の紹介や中学部生徒の作品展示を行い、多くのご来場の皆様にご覧いただきました。

閉会のあいさつ

心に響いた感動の余韻を感じながら一言ご挨拶申し上げます。

本日発表されました各中学校代表の皆さん、大変素晴らしい主張をありがとうございました。

周りの人からの愛情や思いやりへの感謝、将来への決意・覚悟など一つ一つに感銘していますと、どれが優れているのかという視点になかなか立てなかつたというのが本音です。

自らの体験から壁にぶち当たった苦悩や葛藤をもとに変化していこうとする志がどの主張もしっかりと伝わってきました。その想いを絶やすことなく、これから先の困難にも果敢に立ち向かっていって欲しいと切に願います。

皆さんが大人になって活躍する頃には、情報化・国際化などが想像できないスピードで進み、世の中が目まぐるしく変化していると想像できます。しかし、今の想いを糧に学び続けることができれば、どのような世の中になっても大きく活躍できるはずです。そんな皆さんのが想いに育友会の立場からいたしましても、皆さんの健やかな成長と幸せの実現を果たすため、育友会をますます役立つものにしていかなくてはならないと強く自覚させられました。ありがとうございました。

さて本日の主張大会にご臨席賜りましたご来賓の皆様をはじめ、生徒と一緒に本大会に取り組んでいただきました教職員・保護者の皆様、常日頃より生徒たちを温かく見守ってくださる地域の皆様、本日は大変お忙しい中ご来場いただきまして誠にありがとうございました。

また、本大会の開催にあたり、大会準備・運営にご尽力いただきました皆様、司会進行に努めていただいたお二人の生徒、本大会冊子表紙にダイナミックな絵を描いてくださった生徒に心より感謝申し上げます。

結びにあたり本日ご来場の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして閉会のあいさつとさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

宇治市連合育友会
会長 前畠 伸吾

宇治支援学校 中学部のまなび



宇治支援学校には、宇治市と城陽市在住の生徒が通学しています。生活単元学習「宇治・城陽観光大使になろう！」では自分達が住んでいる身近な市について取り上げて、学習をしています。1年生では、宇治市の特産品である「お茶」についての取組、3年生では、宇治市と城陽市について調べたことを基に実際に市内各所に出向き、学習したことを確かめたりインタビューをしてより深く調べたりしました。



お茶でおもてなし



校内の茶畠でお茶摘みをしました。また、自分達で製茶した茶葉でお客さんをおもてなしまする、お茶パーティーを開き、たくさんの人達に喜んでもらうことができました。



宇治・城陽観光大使になろう



世界遺産「平等院」に行きました。「平等院をつくった人は誰ですか？」「どんな仕事をしていますか？」等の質問をして、学芸員さんから聞いたことを正確にメモしました。



主張発表生徒・司会生徒・表紙絵作成生徒と 市長との懇談会 当日の様子

令和7年11月27日(木) 午後4時より、市役所7階特別会議室にて、松村淳子市長と生徒9名（発表、司会、表紙絵計5名欠席）との懇談会を開催しました。



開会後、出席生徒には自己紹介と大会当日の感想等を述べてもらいました。その後市長からは、主張作文の制作過程や準備期間、各校での代表選出までの過程、発表後の周囲の反応についてなど、ひとりひとりに質問と談話がありました。緊張もほぐれてきた頃に終わってしまいましたが、生徒からは「原稿用紙のマス目を大きくしてほしい」、「熱中症対策」等の要望がありました。最後に、松村市長からは、「自分の言葉で自分の考えを発表するという貴重な体験を糧に、3年生は高校生になって新しい環境でもしっかりと自分の気持ちを持って、1、2年生はこれからの中学校生活で何ができるのか考えながら、有意義に過ごしてください」とのコメントをいただきました。



第44回宇治市「中学生の主張」大会

実行委員会

実行委員長 木上 晴之 宇治市教育委員会教育長

副実行委員長 嶽 繁行 宇治市青少年健全育成協議会会长

副実行委員長 前畠 臣吾 宇治市連合育友会会长

【委員】

永田 幸	宇治中学校	浅野 李帆	立命館宇治中学校
大槻 悅子	北宇治中学校	二宮 智代	京都府立宇治支援学校
大槻 有朋	横島中学校	天花寺 裕	校長会担当校長
横山 聰美	西小倉中学校	齊藤 和男	青少年健全育成協議会副会長
福西 真佐美	西宇治中学校	藤田 佳廣	青少年健全育成協議会副会長
阿部 雅弥	南宇治中学校	小川 由智	連合育友会中学委員長
水嶋 優子	広野中学校	福井 康晴	教育部長
坂井 克己	東宇治中学校	武田 義博	教育総合推進センター長
福島 敬	木幡中学校	安留 岳宣	学校教育課長
前川 菜緒	黄檗中学校	井上 宜久	教育支援課長

【講評団】

嶽 繁行 青少年健全育成協議会会长

前畠 臣吾 連合育友会会长

小野 由美子 中学校長会会长

武田 義博 教育総合推進センター長

【事務局】

宇治市教育委員会 教育総合推進センター 教育支援課

〒611-8501 宇治市宇治琵琶33

TEL 0774-20-8766 / FAX 0774-21-0400

E-mail kyoikushienka@city.iji.kyoto.jp

第44回宇治市「中学生の主張」大会まとめ

発行月 令和8年1月

発 行 宇治市教育委員会 教育総合推進センター 教育支援課

表紙絵 宇治市立広野中学校 2年 谷口 たにぐち 穂香 ほのか

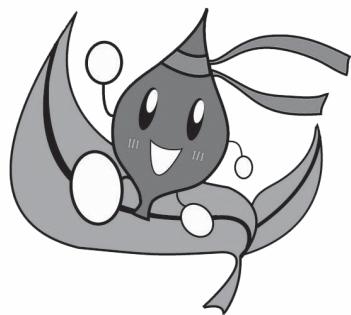
私たち中学生が、大きな壁に対し堂々と主張をする。

主張を聞いて心に届いてほしい、という思いを込めました。



宇治市宣伝大使
ちはや姫

2025



宇治市教育の日
シンボルキャラクター
ハチャ君